

海運の重要性を学校教育の場で
～内航油兼ケミカルタンカーの進水式見学会に協力～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、11月25日（金）に新来島波止浜どっくにて行われた松山市内の船主が保有する内航油兼ケミカルタンカーの進水式の見学会に協力しました。

当日は100名を超える地元の小学生が参加し、本船の間近で見学しました。神主による安全祈願の後、本船は『きんしゅう』と名付けられました。その後、進水作業が開始され、船を支える一本のロープ（支鋼）が銀斧で切断されると、船はゆっくりと動き出し、船首に取り付けられたシャンパンや3つのクス玉が割れ、青空に紙テープが舞い上がり、船はスピードを上げて、拍手と歓声に見送られながら、迫力のある音と共に約110mもある巨体を大海原へと浮かべました。

本船は今後、艀装（船を動かすために必要な装置や設備を取り付ける作業）が行われ、3月に竣工する予定です。

当協会では、今後とも皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。

